



地質総括表

時代	層序	地史
第四紀 更新世	河川堆積物 遼原堆積物 崩積物 河岸段丘堆積物	↑ 飛騨山地の隆起
	塩層層	
第三紀 中新世	北陸層群 (水見累層 香川累層 八尾累層 岩稲累層……檜峠層 楡原累層)	海進 安山岩質の火山活動 積成盆地の形成
	刀利礫岩層及び白中流紋岩	流紋岩質の火山活動
白亜紀	手取層群 (長棟川累層 棚谷累層)	陸化・削刺 内陸盆地の形成
	船津花崗岩類 飛騨變成岩類	海進 削刺 岩脈
古生代		
先カンブリア時代	飛騨變成岩類	變成作用

5万分の1地質図幅の新刊

白木峰 SHIROKIMINE

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著者 野沢 保 (地質部)
坂本 亨 (地質部)
加納 隆 (山口大学)
稲月 恒夫 (北海道大学)

発行 工業技術院 地質調査所
取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

本地域は古くは本邦最古の基盤岩 飛騨變成岩類の最大の岩体 宮川岩体の大半をおさめ 中生代に至っては 飛騨變成岩類に密接に分布する船津花崗岩類 手取層群の小露頭も含み 新生代では 新第三紀北陸層群初期の火山活動・堆積作用の証拠を広く留め その概要は別表のとおりである。

飛騨變成岩類では 本邦で初めて Rb—Sr 全岩 アイソクロン年代で先カンブリア時代の存在が確かめられた。

構造的にもかつて予想されたベイスン・ドーム構造というより 北東—南西に走る岩層と南北に軸を持った褶曲構造が強調されている。 船津花崗岩類は もともと

累帯構造を作る傾向のある深成岩であるが ここでは その小岩体が見事な累帯深成岩体を形成している。

手取層群は 海成層に始まり 厚い陸成層が重なる。

北陸層群では グリーンタフ火山活動に先行する広域沈降と水域形成のあとをここでたどることができる。

更に飛騨變成岩類の中に 溶結凝灰岩を伴う小火山活動が見いだされた。 時代は未詳ながら 飛騨變成岩類地域では初めてである。

本地域は 岐阜・富山県境の峻険な山地からなり 大方は過疎の地域である。 しかし この地域中南部には 跡津川系の危険な活断層が走り 北西部第三紀層地域はまた 本邦有数の地すべり地域でもある。 基盤災害への配慮の必要なことは言うまでもない。

地質ニュース	第327号	11月号
	定価 ¥ 540	〒実費
昭和56年11月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
印刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	